

平成24年度事業報告

1、概要

(全体)

奈良に続き京都と新潟の絆が強化された年であった。京都市の相国寺内の承天閣美術館と当館は双方が所蔵する作品の交換展を開催した。これは、平成22年の八一祭に講師で招請した有馬頼底師（承天閣美術館館長）に交換展を懇請し、実現した。新潟市、新潟日报社、新潟放送と当館の4者で構成した交換展実行委員会で実現した交換展では、新潟側が會津八一記念館とみなとびあの2会場で開催し総計3万人を越す入場となった。他方、京都側の承天閣美術館では會津八一展を開催し、6000人を越す入場者となり、双方で成功を収めた。期間中、文芸講演会を新潟市と京都市で合わせて6回開催し、一流学者らが相互訪問し交流を深めた。また京都展へは当館学芸員が5回出張し、八一展解説会を実施した。グッズ類も販売増。この結果、3月26日、新潟市と京都市が「観光文化交流宣言」を京都で調印する成果となった。

(展示)

特別展は京都・承天閣美術館との交換展「若冲・応挙の至宝～京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展」として新潟で開催した。主会場の市歴史博物館には入場者19,740人、會津八一記念館に10,973人で総計30,713人を達成した。他方京都の承天閣美術館で「最後の文人 會津八一」展を開催し、6,301人を記録した。企画展では春に入江泰吉没後20年を記念した「會津八一と入江泰吉」は2,133人を確保。夏は會津八一きい子生誕100年と銘打ち「絶唱『山鳩』のモデル きい子その愛」で1,615人を確保した。冬は収蔵品展「會津八一と心の友」と第6回写真コンテスト入賞入選写真展を開催し824人。交換展を除く総入館者数は4,572人。前年同期比27%増で約1,000人増加した。当館だけの交換展を含めた年間総入館者は15,545人。會津八一の展示に限れば京都展6,301人+当館4,572人（春夏冬）で10,873人といずれも念願の大台に乗せた。

(講演会)

主催では7回（企画展関連3回、八一祭1回、交換展前触れ館長講座3回）1,067人、交換展実行委員会主催では期間中3回1,028人、また京都でも3回241人だった。当館主催・共催では聴講者総計13回2,336人となった。出張講演・講座は館長9回2,156人、学芸員8回442人にのぼった。館長への講演依頼は相変わらず多いが、学芸員への出前講座依頼も増加傾向である。

(イベント)

第6回写真コンテストはすべて自由部門（改訂版「悠久の五十首」より自由選択）で公募し、応募は115点（前年同数）。表彰式・講評会は従来通り開催した。引き続き共催5、協賛2、協力5の12団体から金品の支援を受けた。入賞入選作品巡回展も奈良、新潟、胎内の3市で開催した。

(新潟日報コラム)

和泉久子先生の指導下で学芸員も解説を執筆した「秋艸道人の歌」を2年間続け、完了した。2年目の掲載分は出版するかどうか検討中。

(出版)

ボランティアによる書簡整理の成果として、八一往復書簡集「雁魚来往」第1集を刊行した。

(財政)

基本財産の東京都債（10年、金利1.6%）を売却し、新たに国債（20年、金利1.6%）を購入、この結果差益858万円を得て、イベント基金を新設し500万円、収蔵品取得基金に305万円をそれぞれ充当、残り53万円を24年度活動費に充当した。

2、事業の内容

- (ア) 展覧会事業 常設展 (経費 2,454,094 円)=前年度 1,573,682 円比 55.9 %増
特別展 (経費 3,854,000 円)=前年度 5,279,349 円比 27.0%減

	23 年度 入館者数	23 年度 開催日数	24 年度 入館者数	24 年度 開催日数	24 年度 入館累計
4 月	241	14	538	26	538
5 月	675	25	688	27	1226
6 月	747	19	945	23	2171
7 月	471	25	551	26	2722
8 月	415	26	547	27	3269
9 月	1075	17	770	18	4039
10 月	1508	26	4639	26	8678
11 月	1479	25	6043	21	14721
12 月	122	7	80	5	14801
1 月	290	24	248	24	15049
2 月	212	25	222	24	15271
3 月	325	22	274	20	15545
合 計	7560	255	15545	267	

※24 年度観覧料収入=交換展 3,426,700 円 常設展 1,609,780 円 (前年度 2,670,500 円)

【交換展】 相国寺承天閣美術館・新潟市會津八一記念館交換展

新潟市は、會津八一の業績を広め、新潟と京都の絆をさらに深めていくため、初めての試みとして京都・相国寺（正式名称・萬年山相国承天禪寺）の境内にある承天閣美術館と、新潟市會津八一記念館の名品をそれぞれ交換し、展示する企画展を開催した。

○ 新潟展「若冲・応挙の至宝」～京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展～

会場：新潟市歴史博物館・新潟市會津八一記念館

主催：相国寺承天閣美術館 會津八一記念館交換展実行委員会

(新潟市、公益財団法人會津八一記念館、BSN新潟放送、新潟日报社)

協力：相国寺承天閣美術館 新潟市歴史博物館 (みなとびあ)

後援：新潟県 新潟県教育委員会 新潟市教育委員会 朝日新聞新潟総局 毎日新聞新潟支局 読売新聞新潟支局 産経新聞新潟支局 日本経済新聞社新潟支局 NHK新潟放送局 NST TeNYテレビ新潟 UX新潟テレビ 21 エフエムラジオ新潟 FMPOR T79.0 FMKENT O ラジオチャット・エフエム新津 (公財) 新潟市芸術文化振興財団 (公財) 新潟観光コンベンション協会

会期：平成 24 年 9 月 29 日～11 月 25 日 開催日数 49 日間

入館者数：10,973 人 (前年度「會津八一 v s 北大路魯山人」～傲岸不遜の芸術家～ 3,961 人)

- ★ 京都五山の名刹相国寺の境内にある承天閣美術館と新潟市會津八一記念館との交換展。平成 22 年の「奈良の古寺と仏像 會津八一の歌にのせて」展開催のうちに有馬頼底師が會津八一の学芸に深い理解を示され開催が実現した。相国寺とその山外塔頭である金閣、銀閣の歴史は、わが国の精神文化の歴史そのもので、承天閣美術館はこれを収蔵する宝庫といえる。新潟展は、會津八一記念館では重要文化財の展示が難しく、展示空間が狭いため、新潟市歴史博物館との 2 会場、前後期に分けて展観した。新潟市歴史博物館では、相国寺と深い因縁のある伊藤若冲と園城寺円満院旧蔵の円山応挙の作品の展示を中心に、重要文化財 5 点を含む伝来の茶道具などを紹介。一方の會津八一記念館では、円山応挙の襖絵や屏風、伝来の禅宗美術、茶道具等を展示した。

同時期に富山県立水墨美術館や福岡県の石橋美術館で承天閣展があり、借りられる作品が限定されていたことが惜しまれる。また、2 会場での開催、重要文化

財の展示交渉、複数の監修・主催者がいるなど大規模な展示だったため連携不足が心配されたが、期間中大きなトラブルも無く閉幕することが出来た。このような交流展を今後も行ってほしいとのアンケート回答も3件あり、次回に期待している入館者もいた。

その一方で、交通、会期、展示内容、料金設定などの広報や説明不足であると来館者から厳しい声も聞かれた。會津八一記念館では「若冲の作品が無い」、「作品数が少ない」など訴える人もおり、今後の検討課題といえる。

○ 京都展「最後の文人 會津八一の世界」

会場：相国寺承天閣美術館

主催：相国寺承天閣美術館 會津八一記念館交換展実行委員会

(新潟市、公益財団法人會津八一記念館、BSN新潟放送、新潟日報社)

協力：早稲田大学會津八一記念博物館

後援：京都新聞社、MBS

会期：平成24年10月6日～12月2日 開催日数 58日間

入館者数：6,031人

- ★ 京都での會津八一展は、昭和21年(1946)京都・大丸で開催して以来、66年ぶりの回顧展。展覧会では、奈良歌を揮毫した書作品をはじめ、東洋美術史の教材として収集した中国美術品、さらには、戦後、八一へ物資を援助し続けた京都市伏見の増田徳兵衛(酒造会社社長)、宇治平等院のために揮毫した書作品など、京都ゆかりの書作品も合わせて108点を紹介。多面的業績を残した学芸の偉才・會津八一の全体像を辿るものとした。

承天閣美術館は、會津記念館の展示室より2倍以上も広いだけに、書作品のほか、早稲田大学會津八一記念博物館収蔵の會津コレクションを織り交ぜながら、八一学芸の世界を余すところ無く、見ごたえのある重量感あふれる展示内容となった。反面、若冲や応挙など承天閣美術館コレクションの見学を目的とした来館者には、興味対象外の會津作品の展示に不満をもち、入館料返金を要求した人も数人いた。今後他館会場で企画展示する時には、常設展示とのバランスに配慮した展示をしなければならないだろう。全体的には、関西地域を中心に會津八一への関心度を広げる契機になったように思う。

【企画展】＝記念館自主企画

① 奈良県・新潟市歴史文化交流協定締結記念 入江泰吉没後20年

「會津八一と入江泰吉」－大和路に魅せられて－

会期：平成24年4月1日～6月24日 開催日数 74日間

入館者数：2,133人(前年度「八一憧憬 中国古俑の世界」1,663人)

- ★ 新潟市と奈良県で締結された歴史・文化交流協定を記念した最初の展覧会。この協定は新潟市出身の會津八一の奈良での足跡を通して、これまで交流を深めてきたことから締結された。また、入江泰吉記念奈良市写真美術館の開館20年、入江泰吉没後20年を記念した展覧会となる。會津八一が愛した奈良大和路の仏像、風景、伝統行事を色褪せることなく遺した入江の写真を前期モノクローム編と、後期カラー編に分けて展示した。また、東大寺ミュージアムからは奈良の大仏の手の拓本を借用した。

鑑賞者からは、作品の並べ方がわかりやすく、奈良に行きたくなったとの声があった。一方、ガラスケース内、作品を飾る壁面まで距離があるため、見辛いと意見もあった。

② 會津八一きい子生誕100年記念

「絶唱『山鳩』のモデル きい子その愛」－會津八一と親族－

会期：平成24年6月29日～9月18日 開催日数 71日間

入館者数：1,615人(前年度「戦争と八一」987人)

- ★ 會津八一の養女きい子(1912～1945)生誕100年を記念し、八一ときい子の家族愛を中心に紹介。

八一の書作品やきい子関連資料58点のうち、きい子絶筆となった病状日記、

八一が祖父の実家の墓碑を揮毫した書の拓本や、縁戚の造り酒屋所蔵の八一書「老影婆娑」など25点は初公開した。親族や知人に向けて細やかな心配りをした八一の知られざる素顔を紹介した。きい子絶筆の病床日記や、きい子と八一の書簡は初めてみる内容で興味深いという感想が得られた。しかし、説明文の文字が小さくて、高齢者には読みづらいという意見もあった。

③ 會津八一と心の友展 同時開催

第6回秋艸道人賞「會津八一の歌を映す」写真コンテスト入賞入選作品展

会期：平成24年12月22日～平成25年3月24日 開催日数72日間

入館者数：824人（前年度「新収蔵品展」949人）

★ 歌人・書家・美術史学者の八一は他分野で活躍する人々と交流を結んだ。そしてお互いに絵や書、短歌、版画、彫金などで表現し、一つの作品として創り出した。展覧会では、杉本健吉（画家）、棟方志功（版画家）、小杉放庵（画家）相馬御風（歌人、詩人）亀倉蒲舟（彫金家）、中田瑞穂（医学者）など、八一と交友のあった人物との合作作品や書簡など約50点を展示した。加えて、この度発見された世界的ベストセラー自伝的小説「武士の娘」の作家・杉本鉞子が、米国滞在中に知人に充てた英文の手紙も特別に紹介。

同時に、「會津八一の歌を映す」第6回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品も陳列した。作品を通して八一の交友の広さに感心したこと、杉本鉞子の英文書簡が印象深かったとの感想を得た。しかし、作品のボリュームが少ない、生涯をもっとわかりやすく展示してほしいという意見もあった。

（展示に対する評価）＝入館者アンケート結果（＋＝好評、－＝不評）
回答者数737名（回答率4.7%）

展覧会名	作品解説の評価		展示量の評価		全体的評価	
會津八一と入江泰吉	+89%	-9%	+69%	-29%	+93%	普通 6%
きい子その愛	+92%	-7%	+88%	-12%	+96%	普通 1%
若冲・応挙の至宝	+74%	-22%	+68%	-29%	+88%	普通 7%
會津八一と心の友	+94%	-5%	+78%	-20%	+91%	普通 6%
合計	+84%	-12%	+71%	-27%	+91%	普通 6%
					-2%	

（接客に対する評価）良い63% 普通35% 悪いor無回答2%

*総括＝①「若冲・応挙の至宝」のポイントが全体的に低い。これは2会場での開催、料金設定など様々な要因があるだろう。

②「若冲・應挙の至宝」以外はほぼ例年と同じ。

③アンケートの回答率が昨年度（12.9%）より減少。

（主な来館者）※当館理事、評議員は除く

・4月＝春日井市道風記念館落合哲館長、鈴川学芸員（12日）千田稔奈良県立図書情報館館長（14日）、平山征夫前知事（22日）関屋中学、三川中学（24日）

・5月＝長岡北中学、松山雄二旧齋藤家別邸館長（15日）、新発田良寛会星野氏（16日）徳永健一新潟県立近代美術館長（17日）、東京学館生徒（18日）、書家石飛博光一門（20日）、三条俳句の会「沙羅」同人13人（22日）水戸市・光書道会団体、ngcクラブ（29日）松矢国憲新潟県立近代美術館専門学芸員（30日）、日報OB望月、中国新聞社川本、兼重氏（31日）

・6月＝渡邊正芳セコム佐渡社長（2日）、新聞協会・専務理事と事務局長（7日）、市島紀郎夫妻（元東京、名古屋 高検検事長市島成一氏の子息）藤田螺子工業社長（13日）孫青陵大教授、長井崇氏（15日）、仙台NHKスクール「現代俳句の会」、旭町資料館・橋本館長（16日）新潟医療福祉大学、俳句・蒼々会、書友師範会（17日）野村克之岐阜新聞社論説委員（30日）

- ・7月＝俳優・寺田農氏（3日）、俳優・高橋英樹氏（4日）、室伏香縁琴奏家、北島藤郷敬和学園名誉教授（6、7日）、八一研究者・故豊原治郎氏夫人と長男、21世紀詩歌朗詠の会（7日）、喜多上氏（會津八一研究家10日）、海老沢立志元明治村学芸員・杉本美術館学芸員（11日）群馬・墨友会、本井晴信新潟県立文書館元副館長（15日）、畠山富夫夫妻（借用者）、鈴木紀子氏（姪静子の息子嫁）、書家今井昭友氏（16日）、上越・大杉屋宮越氏（20日）、埼玉大宮光陵高校、立命館校友会本部及び県支部（24日）野沢慎吾セコム会長（25日）磯島巻菱湖時代記念館館主（27日）
- ・8月＝浅川洋一氏（故浅川晟一氏の子息1日）、薬師寺・山田法胤猊下（2,3日）書道団体・玄遊会（4日）、東京私学研究所、良寛の里職員（7日）万葉堂・大濱正氏（10日）吉村十日町市議、高崎市の吉野秀雄顕彰会（29日）
- ・9月＝茨城県の書道活法会、小幡征子氏（山井龍三郎＝寄贈者の娘 2日）、桐生市生涯学習グループ、かまづかの会（4日）、巻の笹口孝明夫妻、遍照院住職夫妻、西村俊男会長、中島欣也氏（5日）、水島 TNN 取締役（6日）、長岡市公務員退職者連盟、吉池泰夫氏（長野市11日）、西崎美幸師匠、高橋与平衛氏（12日）吉田真理ブルボン社長夫人（13日）小城利重斑鳩町長（26日）、鈴木景雲承天閣美術館事務局長（27日）有馬頼底承天閣美術館館長（29日）
- ・10月＝佐々木丞平京都国立博物館館長（7、8日）、蛭子・糸魚川郷土文化研究家、十見医師（13日）、諫山青陵大学長、渡辺伸義渡義地所社長（17日）、長岡良寛会（20日）県立図書館ボランティア、長野の書道グループ：如水会、今成漬物店夫妻（21日）篠田昭市長、小川宏脳外科病院医師（28日）
- ・11月＝上原木呂氏（画家 3日）、畠中光享画伯（日本画4日）並木誠士京都工芸繊維大学教授、押見陶芸家（7日）関昭一青陵大学理事長（8日）阿曾日報大阪支社長（11日）弥彦良寛会（13日）ノーベル賞益川敏英博士、五十嵐新潟大教育学部長、中国・王華総領事、張智浩アタッシュェ（15日）藤田観光理事・藤田西日本統括本部長（16日）川上宗雪江戸千家家元と弟子（18日）柏崎チャレンジクラブ（20日）小林昌二市歴史博物館長、串田市会議員（25日）
- ・25年1月＝亀倉静子夫人と娘（故亀倉康之・金工作家）声楽家小川恒子氏（5日）、箏曲家武藤松圃氏（8日）田村綜合警備保障社長、十日町・吉沢社長（商工会議所連合会青年部会長 9日）、考古堂柳本氏（13日）牧瀬喜久雄宮城道雄記念館理事長、牧瀬しずえ事務局長（17日）村杉温泉長生館・荒木紀子女将、坂井営業課長（31日）
- ・2月＝島典子元看護師（22日）山田洋子市議と杉山節子元湊小学校校長（28日）
- ・3月＝上田茂新潟眼鏡院社長、加藤僖一先生（6日）明戸和枝、野本孝子（日本共産党新潟市議会議員 14日）ホクギン経済研究所（15日）柳沼新潟大教授（16日）出川哲朗大阪市立東洋陶磁美術館館長（19,20日）

(イ) 講演会事業

- ① 八一祭記念講演会（有料 500円）
 テーマ「酷愛された奈良の歴史」
 講師 山田法胤師（薬師寺貫主）
 日時 8月3日（金）午後2時～3時30分
 会場 りゅーとぴあ 能楽堂（新潟市民芸術文化会館内）
 入場者 345人
- ② 交換展（新潟展）関連第1回 講演会（無料）
 テーマ「北山・東山文化について」
 講師 有馬頼底師（相国寺住職）
 日時 9月28日（金）午後3時～3時30分

会 場 りゅーとぴあ 劇場（新潟市民芸術文化会館内）
入場者 445人

③ 交換展（新潟展）関連第2回 講演会（無料）

テーマ「円山応挙の絵画思想」

講 師 佐々木丞平氏（京都国立博物館館長）

日 時 10月8日（月祝）午後2時～3時30分

会 場 りゅーとぴあ 劇場（新潟市民芸術文化会館内）

入場者 257人

④ 交換展（新潟展）関連第3回 講演会（無料）

テーマ「相国寺の若冲画」

講 師 冷泉為人氏（日本美術史研究家・上冷泉家第25代当主）

日 時 11月5日（月）午後2時～3時30分

会 場 りゅーとぴあ 能楽堂（新潟市民芸術文化会館内）

入場者 326人

⑤ 交換展（京都展）関連第1回 講演会（無料）

テーマ「會津八一の美学」

講 師 神林恒道 新潟市會津八一記念館館長

日 時 10月14日（日）午後2時～3時30分

会 場 相国寺承天閣美術館 講堂

入場者 80人

⑥ 交換展（京都展）関連第2回 講演会（無料）

テーマ「学芸の人 會津八一」

講 師 大橋一章 早稲田大学文学学術院教授・前早稲田大學會津八一記念博物館館長

日 時 10月20日（土）午後2時～3時30分

会 場 相国寺承天閣美術館 講堂

入場者 79人

⑦ 交換展（京都展）関連第3回 講演会（無料）

テーマ「良寛と會津八一そして相馬御風」

講 師 神林恒道 新潟市會津八一記念館館長

日 時 11月18日（日）午後2時～3時30分

会 場 相国寺承天閣美術館 講堂

入場者 82人

⑧ 第1回文芸講演会

テーマ「古代の風景へ 會津八一が憧れた奈良」

講 師 千田稔氏（奈良県立図書情報館館長）

日 時 4月14日（土）午後2時～3時30分

会 場 クロスパルにいがた 映像ホール

入場者 175人

⑨ 第2回文芸講演会

テーマ「入江泰吉が写した奈良大和路 その魅力に迫る」

講 師 説田晃大氏（入江泰吉記念奈良市写真美術館学芸員）

日 時 5月25日（金）午後6時～7時30分

会 場 クロスパルにいがた 映像ホール

入場者 100人

⑩ 第3回文芸講演会

テーマ 會津きい子生誕100年に寄せて「疎開時代の八一ときい子」

講師 北嶋藤郷氏（敬和学園大学名誉教授・「山鳩の会」会長）

日時 7月13日（金） 午後2時～3時30分

会場 クロスパルにいがた 映像ホール

入場者 147人

(ウ) 普及活動事業

① 館長講座＝参加者負担 講師：神林恒道館長

会場：クロスパルにいがた 映像ホール

- ・第1回 5月10日（木）「応挙と若冲」 77人
- ・第2回 6月8日（金）「金閣と銀閣」 126人
- ・第3回 7月5日（木）「室町時代の芸能」 97人

② 作品解説会

○ 新潟市會津八一記念館企画展＝講師：喜嶋、湯浅学芸員

会期中第2、4日曜日 午前11時～12時

○ 相国寺承天閣美術館・會津八一記念館交換展京都展＝講師：喜嶋学芸員

10月6（土）7（日）21（日）、11月3（土）4（日）17（土）、12月1（土）2（日）
1日2回（午前11時～12時、午後2時～3時）

③ 出前講座＝その他の団体主催による講演

- ・4月9日（月）講演「會津八一の魅力」
主催：鳥屋野長寿学級 会場：鳥屋野公民館 講師：湯浅学芸員 27人
- ・5月6日（日）講演「會津八一の美学」
主催、会場：春日井市道風記念館 講師：神林館長 196人
- ・5月19日（土）講演「會津八一と奈良」
主催、会場：奈良県立図書情報館 講師：神林館長 100人
- ・9月21日（金）講演「最後の文人會津八一の誓い～胎内市との関わりから～」
主催：「やまぼうし大学」
会場：黒川地区公民館 講師：喜嶋学芸員 37人
- ・10月17日（水）同行解説「八一足跡巡りバスツアー」
主催：秋艸会 講師：喜嶋学芸員 32人
- ・10月20日（土）講演「會津八一の美学」
主催、会場：新潟高校同窓会 講師：神林館長 1550人
- ・10月30日（火）公開シンポジウム「日韓両国における琴文化ーその伝統と革新ー」
主催：新潟大学大学院現代社会文化研究科
新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部
パネリスト：神林館長 50人
- ・11月3日（土）同行解説「街あるき新潟文学講座」
主催：新潟市文化政策課
会場：新潟教育会館 講師：湯浅学芸員 40人
- ・11月4日（日）講演「會津八一の美学」
主催：放送大学 会場：新潟大学医学部 講師：神林館長 85人

- ・11月5日(月)～7(水) 同行解説「八一足跡巡りツアー」
主催：新潟日報旅行センター 講師：喜嶋学芸員 24人
- ・11月28日(水) 講演「會津八一について」
主催：會津八一記念事業実行委員会
会場：胎内小学校 講師：喜嶋学芸員 123人
- ・12月12日(水) 講演「新潟の文化と會津八一」
主催：県商工会議所連合会青年部
会場：咲花温泉 講師：神林館長 60人
- ・12月15日(土) 講演「新発田が生んだ文化人」
主催：新発田市良寛会
会場：新発田市生涯学習センター 講師：神林館長 76人

2013年

- ・1月12日(土) 講演「新潟の女性」
主催、会場：生涯学習センター 講師：神林館長 19人
- ・2月10日(日) 講演「新潟の女性」
主催：県女子体育連盟 会場：青陵大学 講師：神林館長 20人
- ・2月20日(水) 講演「名誉市民 會津八一の魅力」
主催：あしたを楽しむ会
会場：道上ヶ丘自治会館 講師：喜嶋学芸員 19人
- ・3月13日(水) 講演「名誉市民 會津八一の魅力」
主催、会場：新潟市立山潟中学校 講師：湯浅学芸員 140人

(所蔵品貸出展覧会)

- ・「独往の人 會津八一」
4月27日(金)～6月10日(日) 所蔵品53点貸出 春日井市道風記念館
- ・「ふるさと燦爛 育まれた作家たち展」～旧BSN新潟美術館所蔵品を中心に～
4月21日(土)～5月20日(日) 所蔵品2点貸出 新潟市美術館
- ・「早稲田をめぐる画家たちの物語 小泉清・内田巖・曾宮一念・中村彝」展
9月24日(月)～11月10日(土) 所蔵品9点貸出 早稲田大学會津八一記念博物館
- ・第5回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展
新潟展：10月12日(金)～14日(日) 胎内市産業文化会館
奈良展：5月15日(火)～27日(日) 奈良県立図書情報館

(出版)

八一往復書簡集「雁魚来往」第1集
 ー濱谷浩・川喜田半泥子・小杉放庵と會津八一との往来書簡ー
 編集：「雁魚来往」研究会(渡辺恒美・近藤悠子・角田勝久の3氏)
 内容：写真家濱谷浩への67通と来信65通、陶芸家川喜田半泥子への35通と来信41通、
 画家小杉放庵への4通と来信60通をそれぞれ時系列で組み合わせた。
 A4版 120ページ 2000円(税込み)
 400部発行

(エ) 学習講座(参加者負担)

- ・會津八一の歌を読む会 講師：若月忠信氏(文芸評論家)

砂丘館 毎月第1土曜日 受講者 10人

(オ) イベント

- ① 會津八一の歌を映す」第6回秋艸道人賞写真コンテスト (総事業費 2,335,658円)
- ・公募期間 4月から11月14日 (作品搬入11月6日～14日)
 - ・応募点数 115点
 - ・応募人数 69人 (県内36人 県外33人)
 - ・審査委員 浅井慎平 (委員長)、塚原史、若松保広、和泉久子、神林恒道の5氏
 - ・審査会 12月16日 14時～17時 ホテルオークラ
 - ・審査結果 秋艸道人賞に三条市の小柳直人さん
奨励賞5人は県内3人、奈良県1人、埼玉県1人)
入選は24人 (県内11、奈良3、埼玉4、京都2、福島、神奈川、福井、兵庫各1)
 - ・記者発表 12月17日 (月) 午前10時30分～
新潟市政記者クラブ 浅井委員長、神林館長、武藤事務長
 - ・授賞式・作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式 (入場無料)
25年2月9日 (土) 午後2時～4時 ホテルオークラ 参加人数72人
 - ・祝賀会 (参加者負担)
25年2月9日 (土) 午後5時～6時30分 ホテルオークラ 参加人数41人
- ② 奈良斑鳩町 法隆寺iセンター歌碑「うまやどの」除幕式 9月9日 (日)
- ③ 奈良斑鳩町 上宮遺跡公園歌碑「いかるがの」除幕式 11月6日 (火)
- ④ 新潟市・京都市観光文化交流宣言調印式 (京都・二条城) 25年3月26日 (火)

(カ) 鑑定会 (経費 190,412円)

春の部 4月22日 (日) 総点数15点 認定数13点 収入420,000円
秋の部 11月16日 (日) 総点数26点 認定数20点 収入800,000円

(キ) 新収蔵品

- 寄贈 會津八一書 旧浅川邸書碑原本「春のくさ」他 6点
高島義彦コレクション「明器」 25点
岡本光民コレクション 會津八一書「般若心経」12点 など 計43点

購入 奥田勝宛會津八一書簡 (葉書22通封書21通そのほか6通) 2,300,000円
會津八一・相馬御風合作「まなびすと・かぎりなき」(軸) 500,000円
會津八一書「かすがのの」(軸) 500,000円

(ク) 販売活動

- ・「学規」割引セール 実施期間24年度 (24年2-5月、25年2-3月)
額装14点 未表装9点 色紙36点 販売合計59点

(ケ) 広報活動

- ① 新聞 (記事掲載は県立図書館データベースより會津八一関連記事を検索)
[新潟日報] 記事124回
広告54回 (複製学規と書籍29回 展覧会25回)
題字脇「秋艸道人」コラム 355回
[毎日新聞] 記事2回

〔読売新聞〕	記事 8 回
〔朝日新聞〕	記事 8 回
〔日本経済新聞〕	記事 5 回
〔産経新聞〕	記事 1 回
〔京都新聞〕	記事 6 回
〔書道美術新聞〕	記事 3 回
〔新美術新聞〕	記事 1 回

② テレビ、ラジオ

〔BSN新潟放送〕 = 計 9 8 0 本

・ラジオPR = 計 5 2 1 本

20秒 1本

25秒 14本

30秒 122本

40秒 72本

60秒 312本

・ニュース = 19回 (4月14日～12月18日まで)

・テレビPR = 計 4 4 0 本

開催前 15” 12/08/28-9/28 86本

開催前 90” 9/15-9/28 14本

有馬管長講演会 15” 9/13-9/21 30本

開催中 15” 9/29-11/25 142本

開催中 120” 9/29-11/25 127本

冷泉為人講演会 15” 10/5-10/29 41本

〔NST〕

・市政ニュース 3回

〔NHK〕

・新潟ニュース 610 2回

〔FMポート新潟〕

1回

〔MBS毎日放送〕

・テレビ

・ラジオ

大阪ガス提供番組 第3話「ちひさきもののうた～日吉館とその時代～」

25年2月2日(土) 19時～20時30分

③ 市報にいがた

展覧会、講演募集 = 10回

(コ) 学校団体見学

・4月24日	新潟市立関屋中学校	4人
	新潟県東蒲原郡阿賀町立三川中学校	2人
・5月15日	新潟県長岡市長岡北中学校	4人
・5月18日	東京学館新潟高校	39人
・6月17日	新潟医療福祉大学	216人
・7月24日	埼玉県立大宮光陵高校	68人